



南房総のハズシ

[発行]

南房総教育事務所 指導室

令和5年 3月13日

第22号

教職経験10年未満の先生方による授業実践

今年度の指導室訪問や要請訪問では、多くの先生方が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、実践モデルプログラムに基づいた授業改善に取り組んでいる様子がうかがえました。

千葉県の事業である『U10（アンダー10）学びの未来づくり応援キャンペーン事業』の一環として、事例を2つ紹介します。

袖ヶ浦市立昭和中学校 栗山 光太郎 先生

第2学年女子 保健体育 剣道「面・小手面・胴・面抜き胴を一本（有効打突）に決めよう！」

生徒一人ひとりが「一本（有効打突）を決める」というめあてに向かって、仲間や地域連携指導者との対話的な学びの中で自己の思考を深め習得し、試合で技を試しながら深い学びにつなげていく授業展開でした。

1 見いだす（めあての確認）

胴で1本決めたい！

気剣体一致の技を打つ！



個々にめあてをもつ

2 自分で取り組む（課題練習）

剣先の高さに注意！

左足を引き付ける！



既習事項の確認・課題解決

3 広げ深める（判定試合）

刃筋は正しいかな？

気・剣・体の判定用の教具

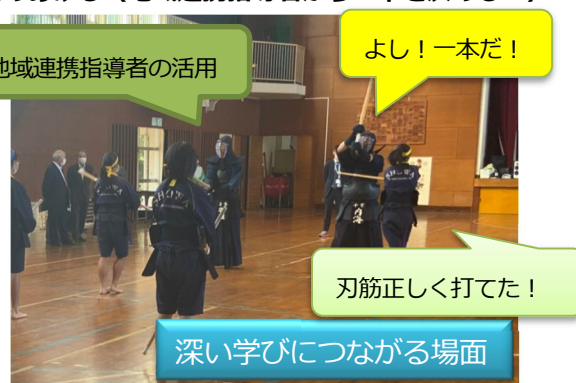


見方・考え方を働かせて判定を行う

4 まとめあげる（地域連携指導者から一本を決める！）

地域連携指導者の活用

よし！一本だ！

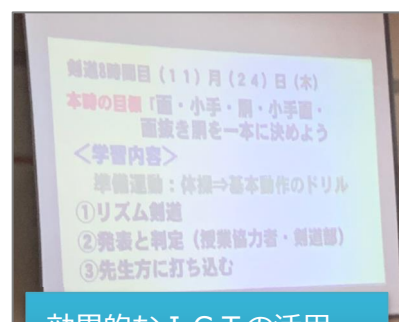


刃筋正しく打てた！

深い学びにつながる場面



体育館を使用し、軍手をつけ、共用の竹刀を使用する等、安全に十分配慮された授業展開でした。主運動の「判定試合」では、生徒が相互に審判員や試合者となって「する・みる・支える・知る」といった体育の見方・考え方を働かせて、自ら「より正確な1本を決める！」という活用から探求につながる過程となっていました。終末には、学びの成果として、地域連携指導者から一本を決める場面があり、達成感を味わっている姿が見られました。



効果的なICTの活用
（授業のめあて・流れ）



君津市立上総小学校 藤野 幹大 先生 生活単元学習「コーン販売会を成功させよう」



生活単元学習は各教科等を合わせた指導の形態です。「自立活動」「生活」「算数」を合わせた本単元では、ポップコーン(種)の販売会の準備をしたり、管理職や担任以外の教師をお客さんとして販売会をしたりしました。異なる学年、様々な実態の児童が在籍する知的障害特別支援学級の集団学習ですが、「児童一人一人が障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服できるにはどうしたらよいか」という自立活動の視点に基づき、個に応じた手だてがたくさん用意されていました。教師の専門性と、児童の笑顔がキラッと光る授業でした。

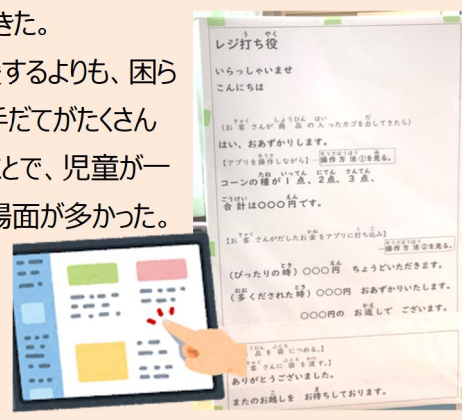
1 見いだす

- ・「お店」「買い物」「ポップコーン」は、児童が興味・関心をもちやすい題材だった。
- ・個に応じた課題の場面（コミュニケーション、計算等）が設定されていた。



2 自分で取り組む

- ・自分で取り組むことができるための手だてとして、接客の際のセリフ表やレジの手順表等を用意した。
- ・レジアプリを使用したことで、計算が難しい児童でもレジ係をすることができた。
- ・困った後に支援するよりも、困らないよう事前の手だてがたくさん用意されていたことで、児童が一人で取り組める場面が多かった。



3 広げ深める

- ・本物に触れる体験が、生活場面への般化にもつながった。



- ・管理職や担任以外の教師をお客さんとした。児童の実態を知っている身近な教師が、児童それぞれのねらいを把握して関わったことで、やりとりも広がり、ねらいを達成することができた。

4 まとめあげる

- ・店員役を2回ずつ行い、その都度動画で振り返り、自己評価を行った。友達や教師からの評価も加わり、「もっと大きな声で話をしたほうがよかった。」と、児童が自ら気づき、行動修正する姿が見られた。
- ・ワーキングメモリに課題がある児童が、学習内容を想起し振り返るための手だてとして、動画が有効だった。



児童が「自分でできた！」と実感できる場面が多くありました。クラスの友達や担任だけでなく、管理職や担任以外の教師からもたくさん称賛の言葉をかけられたことで、児童の満足感・達成感は大きかったと思います。児童の自己肯定感や向上心、学習意欲につながった授業でした。

